

に立歸らしめ非常時局を打開せよ。  
六、會の内容

皇道會常任幹事 稻富 稜 人

四五年前小倉に於て農村問題につき意見を述べた時、それは百姓に話せと言つた人があるが、之は農村問題が都會とは別個のものだと考へて居るからだ、農村の疲弊は都會の疲弊で、經濟上密接なる關係がある、同時に國防上に於ても重大なことである。今日の國防は軍備の充實に俟つて國民思想の統一、國民の生活の安定が必要である、中小商工業者、農民の疲弊は國防上重大なる結果を齎らすものである。之等の對策は代議士の選舉題目に過ぎずして何等の政策なきか今日の政治である。農林大臣は單に其の席を充すのみにて何等一貫したる根本對策を持たない、これでは國

民の生活安定は出来ぬ、總理大臣は陛下の御親任により内閣組織し乍ら少數の財閥の爲大多數を犠牲にする事は國賊的行爲と言つてもよい、一君萬民の政治經濟を強奪する者は許す事は出来ぬ、徳川幕府は上と下萬民の間に在りて暴を極め遂に明治維新により倒された、國家國民を無視した政黨を排撃することは全國民の一致にあり、全九州の文化の中心、福岡市民は吾々の任務重大を知り敢然と立上れ

皇道會常任幹事 北山 亥 四 三

獨の非は中味が大事か殺か大事か、世の中には殺の方を大切にする様な矛盾がある。國家國民は黄味であり、政治經濟等の制度は殺である。この中味が難弱となる場合は先づ殺から破らねばならない。社會は常に飛躍發展する、既成政黨は明治維新當時以來反幕政治の爲戦つて來たが、現在